

第1回 光駅周辺地区拠点整備 基本構想検討会議

～ 光の玄関づくり ～

日時：平成29年7月3日（金） 18：30～

場所：光市役所3階 大会議室1・2号

2



光駅北口から虹ヶ浜海岸を望む

議題 1

光駅周辺地区拠点整備 基本構想検討会議 について

会議の概要

I 目的

《設置要綱第1条（抜粋）》

光駅周辺地区拠点整備基本構想の策定に関し、

① 専門的な見地からの意見、助言等を求める

とともに、本市のまちづくりの基本姿勢である「人や世代を結ぶ『きずな』」の考え方を踏まえた

② 市民参画を推進する

ため、光駅周辺地区拠点整備基本構想検討会議を設置する。

会議の概要 I 目的

つまり・・・

様々なお立場や視点からご意見等をいただきながら、

光駅周辺地区に必要な機能や役割をともに考え、

拠点整備の方向性や全体像を明らかにする

「光駅周辺地区拠点整備基本構想」の策定につなげます。

光市にふさわしい玄関づくり

会議の概要

Ⅱ メンバー



会議の概要

Ⅲ 設置期間

構想の策定が完了する

平成30年度末(平成31年3月)まで

〈おおむね2年間〉

会議の概要

IV スケジュール

< 現時点の予定 ※全7回程度を想定 >

回	日程
1	平成29年7月3日
2	平成29年秋頃
3	平成30年春頃
4	.
5	.
6	.
7	.



色鮮やかな虹をあしらった駅舎

議題 2 光駅周辺地区拠点整備 について



説明の流れ

-  **光市が目指す都市づくり**
-  **光駅周辺地区の位置付け**
～上位計画の記載を中心に～
-  **7つの基本的な視点**
～拠点整備を進めるにあたって～
-  **拠点整備の全体スケジュール**
-  **基本構想について**

光市が目指す都市づくり

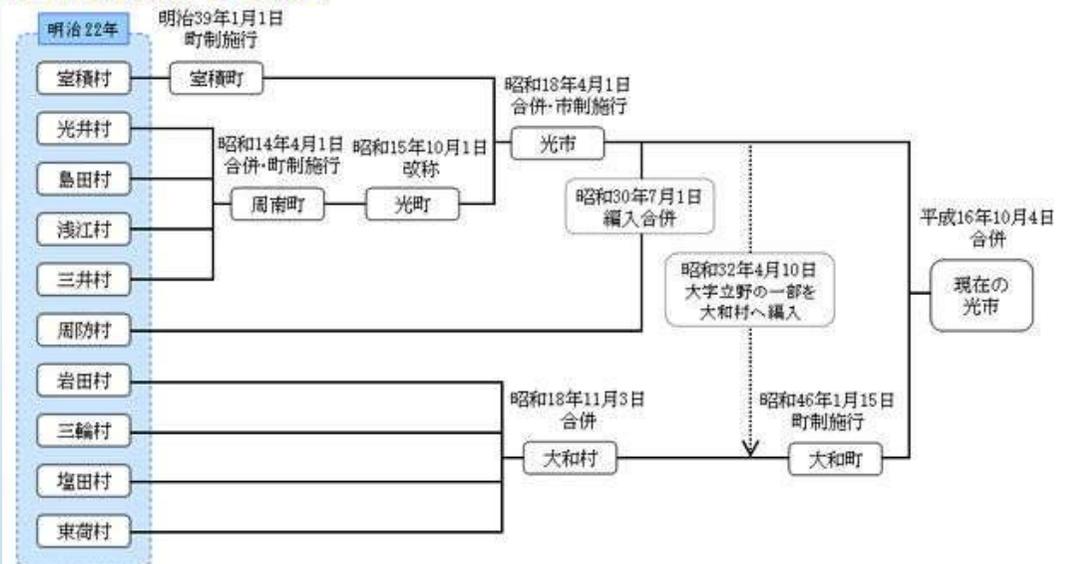
光市の都市の特徴

地理的な制約や歴史的なまちの成り立ち

日常生活圏が
地域ごとに分散

分散型
都市構造

近代光市の変遷



※ 明治22年の村名は、市制町村制施行に伴う明治の大合併後

光市が目指す都市づくり

地域の拠点ごとに
ふさわしい機能の集約

+

拠点と拠点を
公共交通網などで結ぶ

||

「地域集約型都市構造」

(コンパクト・プラス・ネットワーク)



光駅周辺地区の位置付け

- 光市都市計画マスタープラン（H24.3策定）
- 将来都市像

人の活力と豊かな自然が調和した
多核連携によるコンパクトな都市

➡ 本市の主要な“核”の一つ

光駅周辺地区の位置付け

■ 光市都市計画マスタープラン（H24.3策定）

● 将来都市構造図



「都市拠点地区」

に位置付け



都市機能の集積と
高度化を図る地区

都市拠点地区	生活・交流拠点地区
広域連携軸	地域連携軸
森の環境軸	水辺の環境軸
田園（多自然型居住ゾーン）	森林・丘陵ゾーン
住居ゾーン	商業・業務ゾーン
	市街化区域・用途地域
	自然環境保全ゾーン
	工業ゾーン

光駅周辺地区の位置付け

■ 第2次光市総合計画（H29.3策定）

● 光・未来創生プロジェクト ～現在と未来をつなぐレインボープロジェクト～

➡ 特に重点的かつ戦略的に取り組むべき政策

7 ゆきかう光！JR光駅の橋上化と交通ネットワーク強化プロジェクト

戦略的取組み1 JR光駅の橋上化と周辺整備

各種施設の老朽化や移動等の円滑化が課題となっているJR光駅の南北における一体的な拠点整備に取り組み、まちの玄関口にふさわしい都市拠点を創出します。

（具体的取組み）

- 鉄道事業者と一体となったJR光駅の橋上化
- JR光駅の周辺施設等のバリアフリー化
- JR光駅周辺の交通結節機能の充実 など

光駅周辺地区の位置付け

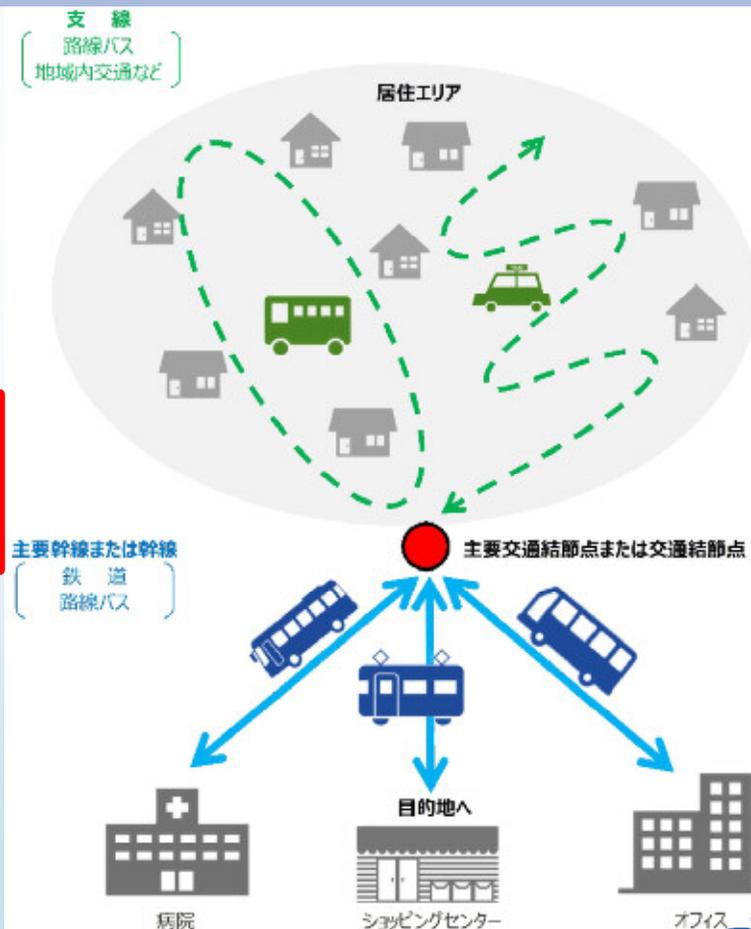
■ 光市公共交通網形成計画（H29.3策定）

● 公共交通の果たす役割

(1) 交通結節機能

本計画における交通結節点を次のように定めます。

分類	場所	役割
主要交通結節点	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>光駅</u> ● 島田駅 ● 岩田駅 	主たる交通の拠点となり、主要幹線同士、主要幹線と幹線・支線の乗継が行われる
交通結節点	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所前 ● 室積コミュニティセンター付近 	市内の地域拠点となり、幹線・支線の乗継が行われる



光駅周辺地区の位置付け

コンパクトなまちづくりにおける“核”（拠点）

都市機能が集まる場所

交通が集まる場所

人が集まる場所

7つの基本的な視点（1 / 7）

① 将来を見据えた拠点づくり

将来都市構造（将来交通体系を含む。）を念頭に、県により進められている瀬戸風線等の整備や市立病院の移転新築などの周辺環境に大きな影響を及ぼす事業の動向などを踏まえて検討します。



7つの基本的な視点（2 / 7）

② バリアフリー化の推進

国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」の趣旨に沿って、関係事業者との協力体制のもとで、旅客施設はもとより、駅周辺の都市施設について、高齢者や障害者を含めた全ての人が移動しやすく安全な都市空間の確保を検討します。

7つの基本的な視点（3 / 7）

③ 鉄道南北地区の連携強化

鉄道線路により分断されている光駅の南北地区の連携や駅と北口との移動動線の確保の観点から「虹ヶ丘跨線橋」は必要不可欠な施設であるため、老朽化が著しく進行し、更新時期が近づいている跨線橋の架け替えを前提に、駅舎の橋上化を見据えた一体的な整備を検討します。



虹ヶ丘跨線橋

7つの基本的な視点（4 / 7）

④ 交通結節機能の充実

マイカー、バス、タクシー、鉄道、自転車、徒歩など、相互の接続を考慮し、交通結節機能の充実と利便性の向上について検討します。



7つの基本的な視点（5 / 7）

⑤ 虹ヶ浜海岸と調和した都市空間の創出

本市の貴重な財産であり、観光資源として多くの人を訪れる虹ヶ浜海岸と光駅とのつながりを意識し、魅力的な都市空間の創出について検討します。



7つの基本的な視点（6 / 7）

⑥ 駅周辺のにぎわいの創出

都市拠点地区として、多くの人々が集い交流を育むため、子どもから大人まで誰もが来たくなる“にぎわい”の創出について検討します。

7つの基本的な視点（7 / 7）

⑦ 市民意見等の聴取

光市の玄関口にふさわしい都市拠点地区を目指し、市民や利用者の皆さんをはじめ、学識経験者や関係事業者、関係団体など、幅広くご意見やご提言等をいただきながら検討を進めます。

➡ **基本構想策定過程における本会議での意見交換**

➡ **市民や利用者を対象とした
アンケート調査の実施 など**

拠点整備の全体スケジュール

< 現時点の想定 >

期間	内容
平成29～30年度	基本構想策定
平成31年度以降	基本計画 設計業務 都市計画手続き など

事業化へ

構想の構成イメージ

● 光駅周辺地区拠点整備基本構想

光駅周辺地区の現状と課題

整備の基本的な方向性

光駅周辺地区に必要な
機能や役割

機能のゾーニング※

※エリアを用途別に区画すること

光駅周辺地区の基本構想図

アンケート調査について

2種類のアンケート調査を実施する予定です。

	市民アンケート	利用者アンケート
対象	16歳以上の市民	光駅利用者
選出	住民基本台帳から無作為抽出	現地
人数	2,000人程度	1,000人程度
配布・回収	郵送配布・回収	手渡し配布・郵送回収
調査内容	光駅周辺地区についての考えや必要な機能、役割などについて、主に <u>大局的な視点</u> から問う	光駅周辺地区についての考えや必要な機能、役割などについて、主に <u>局所的な視点</u> から問う



新・光総合病院予定地

瀬戸風線 (予定)

虹ヶ丘団地

光駅

虹ヶ浜海岸

《参考》鳥瞰図
光駅をとりまく環境1



28

N



駐輪場

北口広場

駐車場

虹ヶ丘跨線橋

駅舎

駐車場

駐輪場

交番

南口広場

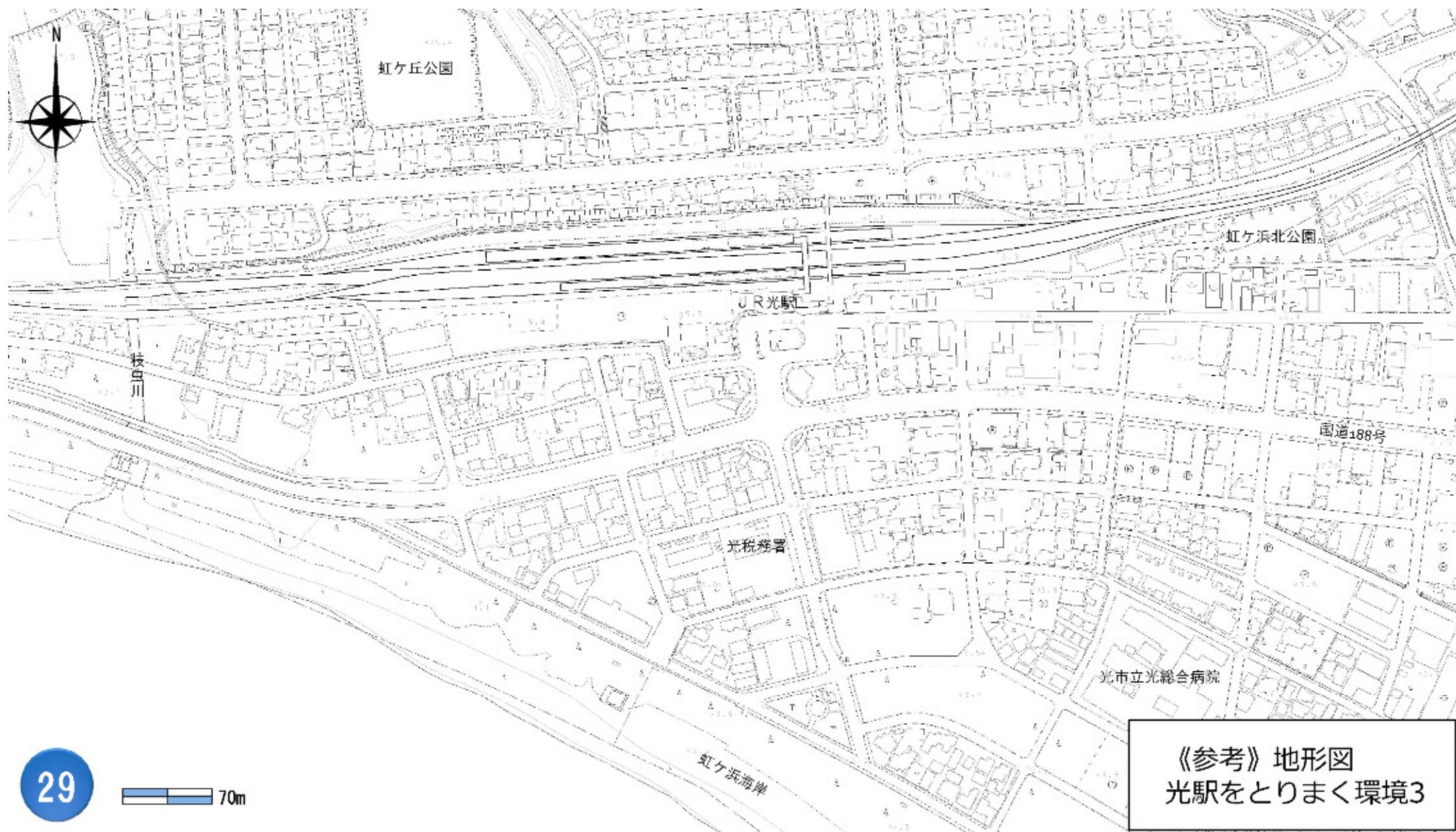
駐輪場

国道188号

↓虹ヶ浜海岸

40m

《参考》航空写真
光駅をとりまく環境2



《参考》地形図
光駅をとりまく環境3